

アジアの友

The Asia-no Tomo

8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2018

ABK 学館創立5周年記念行事開催

海外協定大学の日本語教育事情

(ベトナム) ハノイ大学 (マレーシア) マレーシアサインズ大学

(台湾) 高苑科技大学 (カンボジア) プノンペン大学

(タイ) 泰日工業大学 (ベトナム) フエ外国語大学



第6回卓球大会を開催！

アジア文化会館では、今年6回目となる卓球大会を7月27日（金）に開催しました。今年は男女計8人が熱戦を繰り広げた結果、陽家木さん（中国）が見事優勝、2位に武嗣平さん（中国）が入りました。



◀表彰式で布施館長から表彰される陽さん。

右隣は2位の武さん（中国）

第6回カラオケ大会を開催！！

9月27日（金）、卓球大会に続いてこちらも夏の恒例行事となったカラオケ大会を開催しました。今年の参加者は男子5名女子1名の計6名と少々寂しかったものの、参加者はそれぞれの曲を素晴らしい歌声で熱唱。会場に詰めかけた観客の皆さんを多くに楽しませました。観客投票の結果、優勝した余奕琮（台湾）さんには賞状とトロフィー等が手渡されました。

2018カラオケ大会



アジアの友

2018年8・9月号 第534号

目次

2	ABK 学館創立5周年記念行事開催
4	海外協定大学の日本語教育事情
5	「ハノイ大学日本語学部 歴史と実績ある質の高い日本語教育を実践」 日本語学部 学部長 ギェム ホン ヴァン
12	「マレーシアサインズ大学（USM）の日本語教育事情」 言語学部 日本語教師主任 ケラナ アハマド
15	「高苑科技大学の日本語教育と海外インターンシップ制度」 商業マネジメント学部 応用外国語学科日本語コース 講師兼副主任 佐藤 健
21	「王立ブノンペン大学の日本語教育事情について」 外国語学部日本語学科 学科長 ロイ レスミー
27	「泰日工業大学の日本語教育事情」 語学・教養課程部 日本語講師 スワッターナー デンスパー
31	「フエ外国語大学の日本語教育事情について」 日本語日本文化学部 学部長 グエン ティー フオン チャー
	連載コラム
34	泰日工業大学 奮闘記（第29回） 「日本の大学との交換留学」 水谷光一
37	Information
	ご報告
38	新星学寮建替え募金（2018年8月31日現在）
39	知友会通信
40	MEMBERS

<表紙> 浴衣を寄贈いただいた東京後
楽ロータリークラブのみなさ
んと、学生、職員で記念撮影

ABK学館創立5周年記念行事開催

2013年7月に設立した学校法人ABK学館日本語学校（ABKカレッジ）の創立5周年記念行事が6月に引き続き9月7日（金）と8日（土）の2日間に渡って行われました。

まず1日目の7日（金）は「留学生の日本企業就職等報告会」と題して、日本で就職したABK学館卒業生（タイ、台湾、ベトナム）と彼らを採用した企業の方が登壇。元留学生からは現在の職務や日本で働く意義、やりがいや難しさなどについて。企業の方からは留学生採用に至った経緯やダイバシティ戦略、留学生が入社したことによる社内の変化など、様々な角度から留学生採用の実際についてお話いただきました。外国人社員のために日本人との不平等を見直して規定を作るなど、留学生が活躍しやすい職場作りに取り組む会社の姿勢に、客席からは感嘆の声が上がっていました。



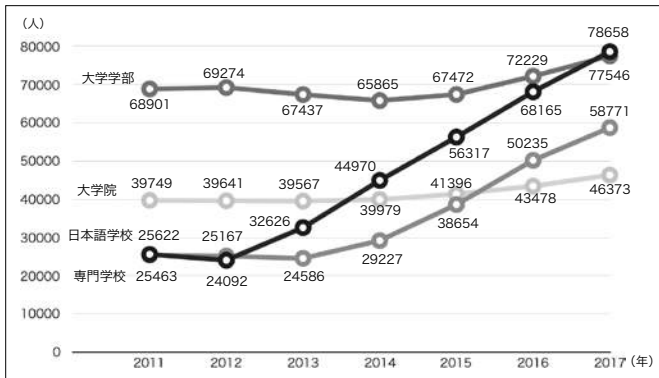
昭和電気（株）とホッカイエムアイシー（株）で働くABK卒業生たちの事例報告



少子高齢化が進む日本において、国籍を問わず優秀な人材を採用しようと積極的に留学生採用に取り組む企業が増加しています。一方で卒業後も帰国せず日本で働きたいという留学生は数多く、今の留学生採用ブームへと繋がっています。こうした状況の中、母国等の大学を卒業していれば、日本の就労ビザの申請が可能ということで、いま、日本語学校から企業への就職を目指す留学生が増えています。大学等で学んだ留学生に比べ、日本経験値で劣る点をいかに補い日本の社会に送り出せるか。日本語学校は新たな時代における役割を期待されていると言えます。

参考資料

① 日本語教育機関在籍者数の推移

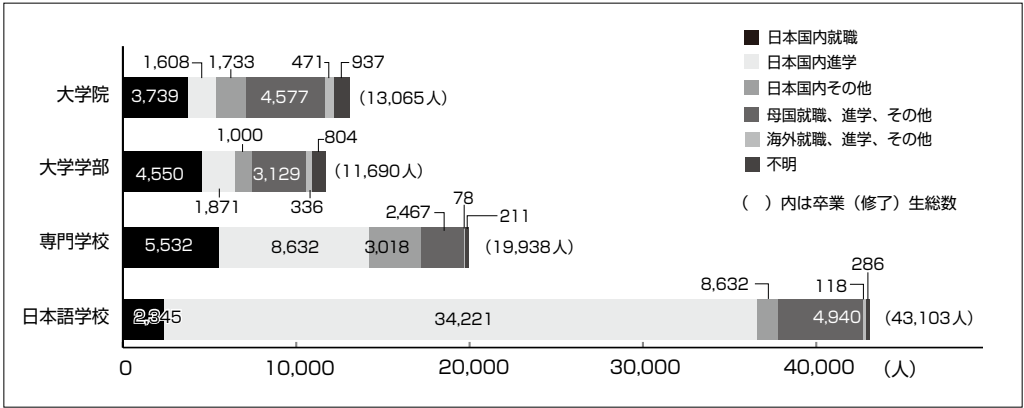


2017年度（5月時点）の日本語教育機関（日本語学校）在籍者数は、78,658人で全留学生267,042人のうちのおよそ3割を占めており、さらに増加の傾向を見せている。

（JASSO「平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果」より作成）

② 主な在学段階別進路状況

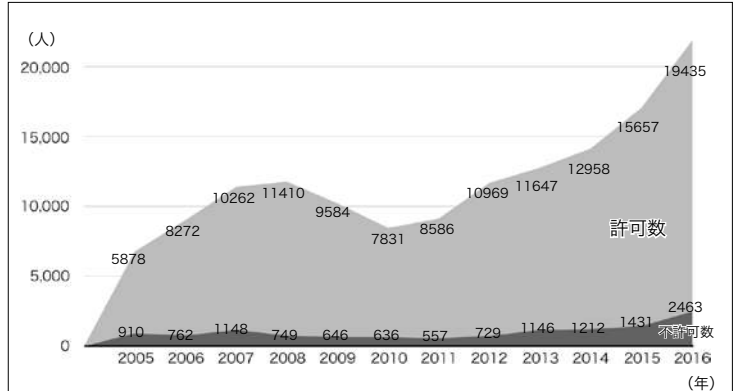
(JASSO「平成 28 年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」より作成)



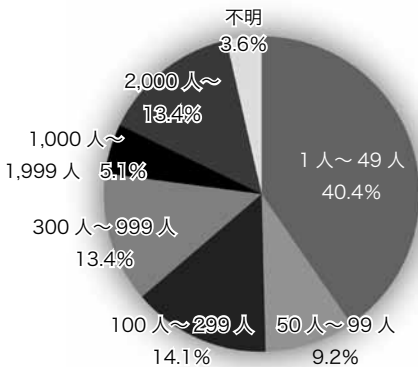
「留学」等の在留資格を有する外国人が在留資格変更許可申請に対して行われた処分件数。(2013 年以降は「留学」に加えて「特定活動(就職活動中または内定者)」から就労資格への変更も対象)。許可率は 90%前後で推移している。

③ 在留資格変更の許可件数

(③～⑤ 法務省入国管理局「平成 28 年における留学生の日本企業等への就職状況について」より作成)

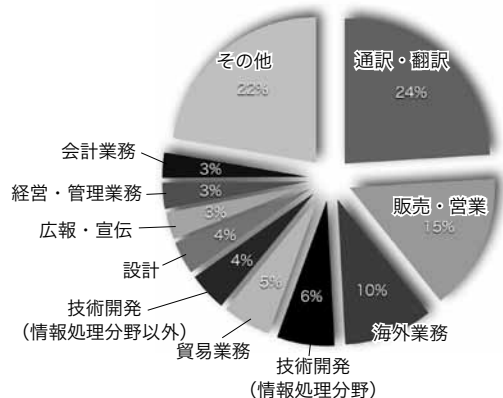


④ 従業員数別留学生の就職先企業



留学生のおよそ半数が従業員 100 人未満の企業に就職している。

⑤ 就職先での職務内容



母語や外国語を生かした職務が多くを占めている。技術系分野はまだ少ない。

ABK学館日本語学校 創立5周年記念行事より

海外協定大学の日本語教育事情

9月8日(土)は「海外協定大学等日本語教育事情懇談会」と「記念祝賀会」を開催。日本語教育事情懇談会は6月にモンゴルおよびバングラデシュから2名の先生をお招きしたのに続いての開催で、今回は5か国・地域6大学の先生方から、それぞれの日本語教育事情についてお話しいただきました。(※一部誌面の都合等で割愛しております。文責：編集部)



▲ 佃 ABK カレッジ校長と各国の先生方



▲ 懇談会の様子



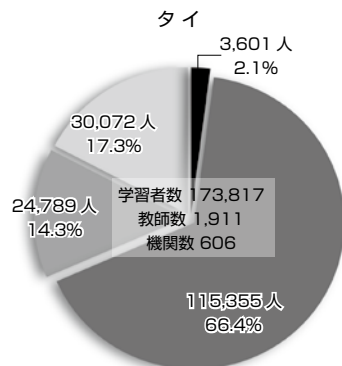
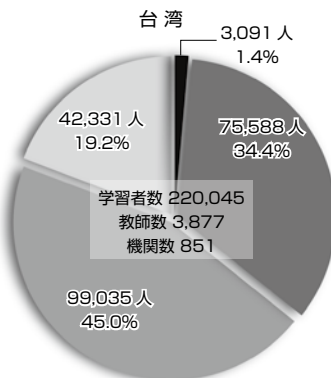
▲ 祝賀会の様子

(参考資料：編集部)

各国・地域の学習者数と教師数

(国際交流基金「日本語教育国・地域別情報 2015年度調査結果」より作成)

- 初等教育
- 中等教育
- 高等教育
- その他の教育機関



報告1▶ ベトナム

ハノイ大学日本語学部 歴史と実績ある質の高い日本語教育を実践

ハノイ大学 日本語学部 学部長 ギェム ホン ヴァン

今日のお話は大きく二つにわけたいと思います。一つはハノイ大学日本語学部について簡単にご紹介します。二番目は現在本学部で進めている日本語の授業、現在使っている教材、そして悩んでいる課題についてお話をさせていただければと思います。

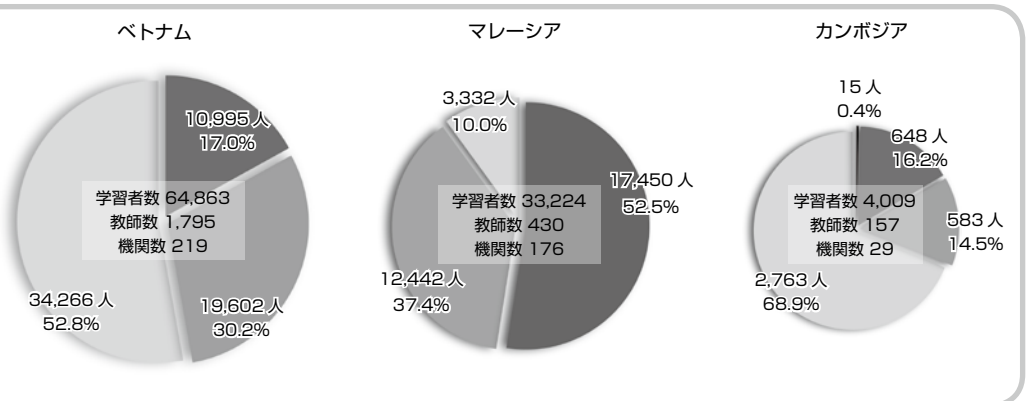
ハノイ大学日本語学部

まずはハノイ大学日本語学部について紹介します。ハノイ大学では1973年に日本語教育が開始されました。当時、日本語学部はまだ存在していなかったため、日本語は英語や中国語学科の学生に第二外国語として教えていたそうです。また当時は日本語を勉強したいという学生はそれほど多くはなく、戦争中で、一時日本語教育が止まってしまった時期があります。その後1993



ヴァン先生

年にやっと学部で正規コースが開設され、それとともなって日本語学部が正式に設立されました。ちょうど今年はハノイ大学における日本語教育開始45周年記念、およ



び日本語学部設立25周年記念の年となります。

学部制正規コースが開設された1年後の1994年には学部制社会人コースも開設しました。以来現在まで二つのコースを平行して進めています。2007年には社会のニーズに応えるために、IT日本語コースも開設しましたが、一期生のみで募集は停止しています。原因としては、日本語学部にはIT専門の先生が2人しかおらず、高学年になるとITの授業は外の大学の専門の先生にお願いして行わなければならなかったということと、学生にとって日本語の勉強は難しく、加えてITの専門用語を覚えるというのは、かなり厳しかったということがあります。一期生22人の学生全てを卒業させることはできましたが、こうした事情によりその後の募集は行っていません。ただし近い将来、ニーズがあつて、先生を揃えることが出来れば、また再開させようという希望はあります。

そして、2010年には修士課程を開設しました。専攻は言語学と日本語教育です。当時は博士課程も開設しようと考えていたのですが、やはり博士まで進学したいという学生は、まだそれほど多くはなく、またベトナムの教育訓練所には、その学部で博士号を持っている先生が一定数いなければ、博士課程の開設はできないという規定もありましたので、今のところは条件が整っておらず、博士課程の開設は見送りました。

日本語学部の学科と教職員

次に、日本語学部の組織ですが、日本語学部は五つの学科からなっています。日本語基礎学科、通訳翻訳学科、日本語学学科、日本文学文化学科と専門教育学科の5つの学科です。学生は最初の2年間は純粋に日本語そのものの授業、文法や会話、文字のスキルを教育する授業を受けてもらいます。そして3年、4年では、通訳翻訳者になりたい学生は通訳翻訳学科で、ビジネスパーソンとして活躍したい学生は専門教育学科で勉強してもらいます。さらに日本語を究めたいという学生は日本語学学科や日本文学文化学科に進んでももらいます。

日本語学部の教職員は約40人います。そこから非常勤講師、ボランティア日本語教師、日本留学中の教師を除いたベトナム人教職員は33人で、そのうち事務担当と教務担当が2人なので、先生は31人になります。ただし、全員女性で若い先生ばかりですから、結婚してしばらく産休に入ってしまうという人が毎年2—3人おり、実際に授業をしている教師の数は27、28人だと理解していただければと思います。

なお、ベトナム人教師は6名が博士号を持っており、ほかは修士号を持っています。

日本人教師は現在5名です。実は10年前まではJICAからボランティア教員を派遣していただいていたのですが、最近是我们自身でボランティアの先生を探せるように

国立ハノイ大学は「ハノイ外国語大学」を前身とし、日本語などの各外国語学部をはじめとした多数の学部を擁する国立総合大学。高い教育レベルと整った学習環境から国際交流も盛んで、世界20か国以上の教育機関と連携、大勢の留学生が学んでいる。

なり、今は日本政府関係の派遣の先生はおりません。私たちが NPO などの組織と連携して、毎年少なくとも 2-3 人のボランティア教師を派遣してもらっています。

本学部の教育目標ですが、これまでの日本語学部の強みは日越翻訳・通訳人材の育成にありましたが、この 5 年で社会のニーズが多様化しており、最近は日本語教育専攻とビジネス日本語専攻の人材育成を中心に教育を進めています。

次に、施設面ですが、学生たちが安心して勉学に集中できるように、CALL (Computer Assisted Language Learning) や LL (language laboratory) 教室、学生食堂、図書館など、かなり充実したものとなっています。ハノイ大学はベトナムのほかの大学と比べても設備や施設が充実していると評価されています。

加えて、去年の 11 月には教育訓練所の支援によりキャンパス内に大きな建物が建てられました。これはハノイ大学の外国語の試験だけではなく、国家レベルの外国語検定試験のために使われています。

学生数と成績

次は各年度の学生の数ですが、この 10 年間、ベトナムに進出する日本企業の数はいくつも増えていますので、それに伴い学生の数も増えています。下の表はこの 5 年間の学生総数を表す表ですが、先生約 30 人でこの数の学生を対象に授業をしていか

SỐ LƯỢNG SV 各年度の学生数

Năm học 年度	Chính quy 正規コース 学生数	Tại chức 社会人コース 学生数	Ngoại ngữ 2 第二外国語 学生数	Cao học 大学院生数	Tổng số 総数
2013 - 2014	592	141	152	7	892
2014 - 2015	621	182	191	11	1005
2015 - 2016	647	134	133	17	931
2016 - 2017	549	186	121	5	861
2017 - 2018	624	146	62	5	837

ないといけないということを想像していただければ、その大変さがおわかりになるのではないかと思います。

正規コースと社会人コースのほかに、他の外国語学部の学生で第二外国語として日本語を勉強したいという人の数もかなりいます。今ベトナムでは日本語が少しでも話せたら就職しやすいというブームがありますので、その数は正規コースの学生数よりも多くなっています。ですが、先生が足りませんから、一学年 100 人以内に収めるよう、受入れは先着順という形にしています。

大学院生の数は、それほど多くはありません。大学院まで進んだ場合、将来どこかの研究所や大学で教えることになりますが、そうした先生になろうと考えている人は残念ながらそれほど多くはありません。今、うちでは少なくとも 5 人ほど先生を募集したいのですが、この 2 年間 1 人も採用できませんでした。これはベトナムの現状であり、うちの大学だけではなくてほかの大学も同じ状況です。

次は学生の成績ですが、80% 以上が優

良学生となっており、さらにN1、N2を保持する3・4年生の割合は75%ということで、大変誇りに思っています。なぜこういう割合を維持できるのかというと、もともと日本語学部に入ってくる学生は優秀な高校生ばかりということがあります。大学入学時の点数が数学、英語、国語それぞれの科目で9点以上をとっている優秀な学生ですから、4年間大学で勉強してもこのような成績を出せるわけです。学生たちは日本語スピーチコンテストや日本語エッセイコンテストなどに出場し、いつも優秀な成績を収めてきてくれます。

また、日本の文部科学省の奨学金を受けて、日本語・日本文化研修留学生（日研生）として1年間日本に留学する学生数は、この5年間、毎年3、4人いますが、そのほか日本にある30ほどの協定校との交換留学プログラムを通じて、年間30人ほどを日本に行かせています。日研生の数はちょっと減っているのですが、これは学生の学習成績が劣ってきているからというわけではありません。日研生の試験を受験できる人数は、日本政府の方針で各大学ごとにだいたい決まっていて、2015年以前はベトナムにおける日本語教育を行っている大学はそれほど多くなく、ハノイ大学から10人ほどがその試験を受けることができました。ところが、2015年以降、他の大学に日本語専攻課程がどんどん増えて、その分私たちの大学から受験できる人数が4人、5人に減ってしまったというわけです。

Số lượng sinh viên đi học tại Nhật theo các chương trình

各年度の日研生及び交換留学生数

Năm học 年度	Học bổng CP (Mext) 日研生	Chương trình trao đổi 交換留学生	Tổng số 合計
2013 - 2014	7	19	26
2014 - 2015	6	14	20
2015 - 2016	2	29	31
2016 - 2017	3	31	34
2017 - 2018	2	34	36

卒業生の就職状況

次に就職について話したいと思います。ほぼ100%の卒業生が就職できています。やはり日本語が出来る人材が欲しいという日本企業が毎年うちの学部を訪れ募集活動を行っていますので、卒業時点までにほぼ全ての学生の就職が決まっています。これは他の学部の学生に比べるとすごいメリットですから、日本語学部入学を目指す大きな理由につながっていると思います。

卒業後の主な仕事は通訳者、翻訳者、ツアーガイド、銀行員、サラリーマンといったものがメインです。受け入れ先としてFPTグループ、ブラザー、Panasonic、ホンダ、みずほ銀行などがあげられます。私たちは卒業生に対する統計をとっていないのですが、卒業生には学部のFacebookなどを通じて情報を提供してくれるようお願いしています。近い将来、きちんとした統計を作ろうと考えています。

就職先はうちの卒業生を高く評価して

くれていますので、それも一つの誇りになっています。

日本関連イベントの開催

次はいくつかのイベントについて話したいと思います。一つは夏休み（6月～8月）に行われるボランティア活動です。ボランティア活動ではベトナムにある山岳地帯など田舎に行って農業の仕事を手伝ったり、貧しい家庭の子供たちに国語などを教えたりしています。

もうひとつ、9月に入ってからには新入生を迎えるための新入生歓迎会と音楽祭があります。12月の半ばに入ると日本文化週間があります。日本文化週間は月曜日から金曜日まで行われます。ハノイ大学の学生だけではなく、近隣の大学の学生などに、より広く日本の文化を紹介する為のイベントです。その文化週間の一環として、茶道クラスとか書道クラス、生け花クラス、写真展示会などを設けています。

使用教材

科目	1年生	2年生
総合演習	みんなの日本語1 みんなの日本語2	ニューアプローチ中級日本語 ニューアプローチ中上級日本語
聴解	聴解タスク	新毎日聞き取り(上) 新毎日聞き取り(下)
会話	会話イラストシート	会話に挑戦 日本語ロールプレイ
読解	楽しく読もう1 楽しく読もう2	日本語を楽しく読む(中級) 日本語を楽しく読む(中上級)
作文	優しい作文	らくらくライティング

これら3つの大きな活動のほかにくつかりの活動も行っています。その一つとして協定校の日本人学生との交流会を年に何回か行っています。

授業と教材について

日本語の授業内容について紹介したいと思いますが、先ほど私が言った通り、最初の2年間は日本語そのものの授業を受けてもらいます。学期は2年間で4学期あり、日本語の授業は一つの学期につきだいたい

400時間設けていますが、入学して最初の1学期は他の授業も多いので、240時間です。そして、週に4回、午前か午後に授業があります。授業は前半後半に分けられていてそれぞれ100分の授業ですが、途中30分の休憩時間があるので、1回の授業はだいたい3時間半になります。

午前の授業については、7時20分から11時20分まで、午後の授

CÁC HOẠT ĐỘNG KHÁC その他の活動

Trải nghiệm Trà Đạo
茶道クラス



Trải nghiệm Thư Pháp
書道クラス



高学年での授業

通訳・翻訳専攻	ビジネス日本語専攻	日本語教育専攻
- 通訳(日越・越日) - 翻訳(日越・越日) - テーマごとにおける通訳・通訳(教育、文学、経済、観光など) ...	- 日本経済 - 簿記 - オフィス日本語 - 日越経済関係 - 国際マーケティング - 日本のビジネス文化 ...	- 日本の教育システム - 日本語教育概要 - 第二外国語習得教授法 - カリキュラムデザイン - 学習成績評価 ...

業は12時20分から16時20分までとなっています。朝が早くて日本人の方には考えられないかもしれませんが、これはベトナムでは普通のことで、小学校や中学校でもだいたいその時間にスタートします。

現在使っている教材は、1年生の時にはスリーエーネットワークの『みんなの日本語』1と2。その補助教材を聴解、会話、読解、作文の授業に使っています。2年生になると、『ニューアプローチ中級日本語』と『ニューアプローチ中上級日本語』の2つの教科書を使います。

2年経った時点で、学生たちにはN3以上、N2未満程度の日本語力を身に付けさせたいと思っています。それができないと、高学年での授業についていけませんから、先生たちにも学生たちにも精一杯がんばってもらわないといけないということです。

3年生以上の高学年が使う教材ですが、通訳翻訳やビジネス日本語専攻学科では、日本で出版されているものではなく、うちの先生方が作ったオリジナル教材を使っています。

今後の課題と目標

今悩んでいる課題ですが、まず教師不足ということがあります。ベトナムにおけるいくつかの大きな大学の学生の数や先生の数をとめた表を見ていただくと、ご覧のとおり、ハノイ大学はまだまじなほうで、例えばホーチミン市外国語情報大学とかフエ外国語大学などは、先生が20人しかいない

のに、学生は750人ですから、教員一人あたりの学生数は30人以上、40人以上ということになります。

先生たちをできるだけ日本に留学させて、新鮮な日本語を身に付けてもらい、それを学生たちに伝えてもらいたいというのが私たちの方針ですが、一度日本に行かせてしまうと戻ってこないという先生もいます。特に日本の文科省の奨学金をもらって、3年間、7年間日本に留学した先生たちは、戻って来ないことがとても多い。ハノイ大学の場合は、私を入れて8人が文科省の奨学金で日本に留学しましたが、戻ってきたのは残念ながら私だけでした。他の大学でも同じことが起っていますから、在ベトナム日本大使館の大使さんにも、対策がないものかとご相談しています。

2番目の課題はインターン制度です。日本語学部の場合はインターンシップという科目があって、必修になっていますが、4年生が180人いるのに対して、受入れ企業はそれほど多くありません。最近日本

ベトナム主要大学の日本語学生数と教員数

地域別	大学名	学生数(約)	教員数	教員1人当り学生数
北部	ハノイ大学	1000	40	25
	ハノイ国家大学外国語大学	727	43	17
	ハノイ貿易大学	536	18	30
	ハノイ工科大学	146		
	タンロン大学(私立)	1326	18	74
中部	フエ大学外国語大学	750	20	38
	ダナン外国語大学	600	14	43
南部	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学	700	32	22
	ホーチミン市師範大学	700	12	58
	ホーチミン市外国語・情報大学	650	8	82
	ホーチミン市貿易大学	240	4	60
	ラクホン大学	420	9	47
	バリア・ブンタウ師範短期大学	80	3	27

国内の企業からもインターンシップの受入れを行いたいというお話をいただくのですが、例えば学生が飛行機代や生活費を負担して日本でインターンシップを受けるとしたら、1か月とか2か月の短期ではなくて、最低半年は行きたいですから、そうなるとなかなか受入れも難しいということになります。ということで、どのようにこの180人にインターンシップを行わせるか、悩んでいるところです。

3番目の課題は博士課程の開設です。これから設置条件を満たして5年後には開設したいと考えています。それまでに今の若い先生方に博士号をとってもらいたいと思っています。問題はその博士号をどこでとってもらうかということです。日本でだとまた戻って来ないという可能性があります。ベトナムだと、うちの場合は日越対照研究で、日本語に詳しい教授や先生は限られてしまいます。また、自宅にいと家事

や育児の仕事など、いろいろ影響されますから、なかなかベトナムで取るのも難しいところです。

4番目の課題は就職活動の促進です。現在の就職率は100%ですが、先生方は日本語を教えながら、就職活動の支援もしなければならいので、皆大変苦勞しています。そのため就職支援のためのスタッフを募集したいのですが、なかなか適当な人材がいません。また日本の場合、就職活動の時期がベトナムとは異なります。うちの場合は毎年6月30日が大学全体の卒業日ですから、就職活動はその前になります。その時期はインターンシップもありますし、授業もまだたくさん受けなければなりません。ですから、就職活動をどこに入れたらいいかということも、課題です。

長くなってしまいましたが、以上です。ご静聴ありがとうございました。

報告2 ▶ マレーシア

マレーシアサインズ大学 (USM) の日本語教育事情

マレーシアサインズ大学 言語学部 日本語教師主任 ケラナ アハマド

マレーシアサインズ大学の日本語クラス

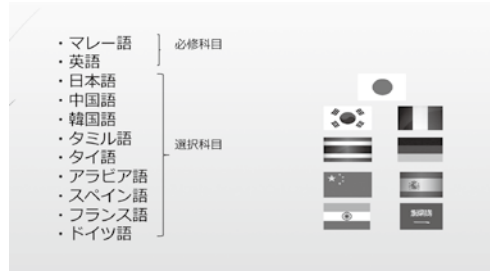
私たちの大学は UNIVERSITI SAINS MALAYSIA (マレーシアサインズ大学) = マレーシア科学大学といまして、マレーシアのペナンにあります。

マレーシアにおける日本語教育は、最初クアラルンプールのマラヤ大学で始まり、次に私たちのサインズ大学、その後はマレーシア全体に広がり、現在はボルネオのほうでもマレー半島のほうでも日本語を教えています。

マレーシアサインズ大学は1969年に設立された国立大学で、2008年にはマレーシアの高等教育省より初の最高大学に選ばれました。

ペナンの橋を降りるとすぐ大学の看板が

言語・リテラシー・翻訳学部の履修可能言語



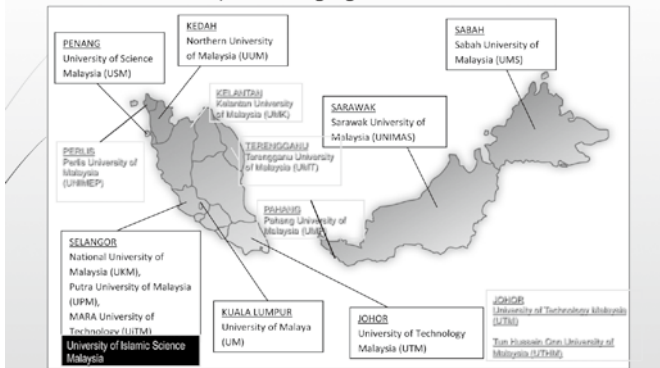
見えます。私が所属しているのは言語・リテラシー・翻訳学部ですが、大学には日本語学科はなく、日本語は選択科目として教えられています。ですから、いろいろな学部から学生が来て日本語を学んでいるという状況です。

私たちの学部では11か国語を学ぶことができますが、そのうちマレー語と英語は必修で、卒業するためにはこの2つを履修し

合格しなければなりません。そのほかは選択科目で、日本語もその一つです。

日本語クラスのレベルについてはオプションとマイナーがあります。オプションは4レベルあって、それぞれLAJの100、200、300、400と呼んでいて、教科書は『みんなの日本語』を使っています。マイナーの学生

Higher Learning Institutions Offering Japanese Language



日本語を教えているマレーシアの高等教育機関

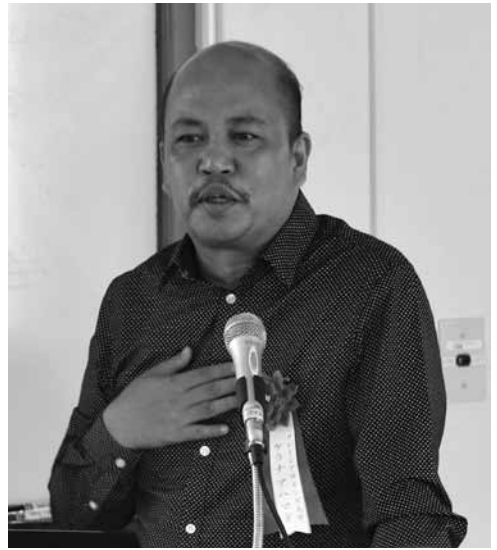
はレベル4+1で、教科書は『げんき』を、1が『ビジネス日本語』を使っています。東南アジアではよく使われている本ですね。1週間の授業はオプションは4時間ですが、マイナーは6時間です。

日本語履修生と学習動機

日本語をとっている学生の人数について、私たちは正確には把握してないのですが、先学期の試験結果から、計374人という数を出しました。男女比ではやはり女性パワーが強いですね。マレーシアはどこかの大学でも女性が多い。うちの日本語の先生は4人ですが、私以外はみな女性です。

日本語の学習動機ですが、学生に聞くと、やはり日本企業で働きたい、日本のアニメが好きといった人が多いです。中には芸者を見たいからという学生もいますが、最近の京都は本物の芸者より、着物を着た中国人観光客の方が多いようです（笑）。

昔はJpopの人気もありましたが、最近ではKpopばかりで、Jpopの宣伝は聞こえてきません。学生にはKpopが好きだったら韓国語を習ってください、うちはJ-pop専門



ケラナ先生

ですよと言っているんです（笑）。

卒業後の進路ですが、日系企業、マレーシア企業、外資系企業、公務員などです。進学する人もいます。文科省の奨学金で日本の大学院に進学する者もいます。

私たちの大学には、毎年日本から企業の方が来て、学生の採用を行っていて、卒業生の4、5人が毎年日本に行って仕事をしています。

うちの学生に一番馴染みのある日本企業というのは東レです。東レからはいろいろと

ご支援をいただいている、キャンパス内に学術交流のための建物を建てていただいたり、日本文化センターの建設にご協力いただいたりしています。

そのほかユニクロは5年前にマレーシアに進出して来て、うちの学生も採用していただいております、時々千葉県幕張に研修に行っているようです。そのほか、SONYや本田も学生に人気

USMでの日本語の状況

■ 日本語のスタッフ : 6人

タイプ	レベル	時間 (週)	本
オプション	4	4	みんなの日本語
マイナー	4+1	6	元氣・ビジネス

1学期: 14週の授業

評価: 40% (コースワーク)・60% (試験)

<http://www.ppbit.usm.my/index.php/program/foreign-languages/japanese>

USMの日本語学習者について

レベル	人数	年齢	性別	備考
LAJ 100	164	19-25	80%(女) 20%(男)	オプション
LAJ 200	97	19-25		オプション
LAJ 300	30	19-25		オプション
LAJ 400	19	19-25		オプション
LLJ 100	—			
LLJ 200	29	19-25	75%(女) 20%(男)	マイナー
LLJ 300	—			
LLJ 400	25	19-25		マイナー
LLJ 401	—			
合計	374			

2018・2月

がありますね。

また、大企業だけではなく、名古屋の中小企業の方が学生の採用活動のために大学を訪れています。これからも、もっと多くの企業の方に来て欲しいと思っています。

授業方法と日本の大学との交流

授業における実践報告ですが、ひらがな、カタカナ、漢字は基本ですが、それだけでは疲れてしまいますから、ゲームや映画鑑賞など様々なことをしています。とくに私はもともと音楽の教師だったので、日本の歌を歌いましょうということで、授業に歌を取り入れてます。もっとも最近の歌はわからないので、私が日本語を学んでいた時の歌です。「恋人よ」とか、サザンオールスターズなどですね。学生からは「先生それ何?」と聞かれます(笑)。

漢字については中国系の学生はほとんど問題ありませんが、インド系、マレー系については少々問題があります。発音はインド系が上手ですね。またイン

ド系言語の文法は日本語と近いので、彼らは勉強しやすいと思います。

行事については国際交流基金のご協力のもと、毎年「紅葉の日」とか、「桜の日」といったイベントを行っています。みんなカラオケ好きですから、カラオケ大会も年2-3回やっています(笑)。

また、USMに日本文化センターがあるということで、日本からの大学生が、交換留学生や、英語、マレー語の短期留学生としてUSMを訪れ、私たちの学生と交流をしています。日本語を学ぶ学生がフェローやバディとなって、ホームステイなど日本人学生と交流出来るプログラムがあります。特に中部大学、南山大学、摂南大学、関西外国語大学、京都外国語大などの学生がよく来ています。今は広島市立大学の学生が来てホームステイをしています。

私の発表はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。



日本人大学生と民族衣装で交流

報告3 台湾**高苑科技大学の日本語教育と海外インターンシップ制度**

高苑科技大学 商業マネジメント学部 応用外国語学科

日本語コース講師兼副主任 佐藤 健

私は台湾の南部、高雄市にある高苑科技大学で日本語を教えています佐藤と申します。現在は学科長に相当する主任に次ぐ副主任ということで、中間管理職として何でもやっております。最近は学生を1年間日本にインターン生として派遣するということに力を入れておりまして、本日はそういった立場からお話をさせていただきます。

高苑科技大学について

高苑科技大学は1989年にできた学校なのですが、特徴は唯一サイエンスパークに隣接する産業型科学技術大学ということです。それで“科技”なのですが、理系中心の大学です。私が所属するのは商業マネジメント学部にある応用外国語学科の日本語コースで、学生数は多くはありません。それぞれの学年は一クラスだけで、あとは夜間のコースがありますが、それでも日本語を学習している学生数は200人程度という規模です。

日本との交流にも当然力を入れておりまして、よく名前だけの姉妹校というのをたくさんお持ちの学校があるのですが、私たちは実質的に相互が行き来するような形で交流しようということで、岡山の中国学園大学さんや熊本の崇城大学さん、大阪の関

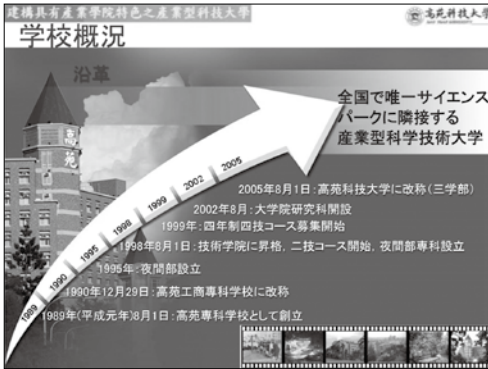


佐藤先生

西大学さんと交流を行っています。

気が付いて見ると2016年に崇城大学さんと交流が始まったのは、みなさんご存知の熊本の地震があった直後でして、今年も各地で自然災害が続いている影響で、研修や短期留学など日本での活動に影響が出ています。台湾もしょっちゅう台風や地震がありますので、お互い安否を気づかうような親密な関係を続けております。

そのほか、学科だけでなく、学校全体の特徴となっています日本文化学苑という教室があり、学外の方にも日本文化を体験していただくコースを提供したり、日本からお客様がいらっしゃったらこちらに来てい



ただいて学生との交流をしていただいたりしています。学校全体が日本との交流に力を入れてくれていますので、そういった意味では学生にとっては恵まれた環境になりつつあるのではないかなと思います。

日本でのインターンシップ

今日の話のメインである海外インターンシップについて、今年の6月末時点のデータをもとにお話をしますと、2017年は海外のインターン生が全学で128人おりまして、そのうち76人が日本で1年間のインターンシップを行いました。企業数で言いますと44社ということで、そのうちのいくつかをご紹介します。

一番初めにインターンシップを始めたのが、徳島県の大歩危にあります「大歩危峡まんなか」さんです。ここを起点に他社をご紹介いただくなどして広がっていきました。同じ四国の香川県にあります「琴参閣」さん、石川県の「ゆのくに天祥」さん、島根県の「佳翠苑皆美」さん、山梨県の「富士急行」さんなどです。

今年の3月にはJR 四国さんと産学連携協定を結びましたが、JR グループで海外の大学とこうしたインターンシップの協定を結ばれたのはJR 四国さんが初めてということで、締結式を行いました。これも実は大歩危峡まんなかさんのご紹介なのですが、一つやるとそこから広がって行くということがあるので、参考になればと思います。

インターンシップまでの道のり

初めてインターンシップをする時ですが、まずお話しさせていただく際に、インターンシップ制度について、きちんと説明する必要があります。というのは、技能実習生と、このインターンシップを誤解される方が多いからです。インターンシップ自体は中国語で実習という漢字を使いますので、我々自身、昔は「実習」と言っていたのですが、その言葉をそのまま日本に持ってくると、少々誤解されるということがあります。ですから、インターンシップという言葉を使って、「インターンシップは大学の学生が教育課程の一部として行うもの」という説明をさせていただいています。

実は先ほどの「76人が44社で…」というのは、間に仲介業者さんが入った数字なのですが、今年度は全て企業と大学との2者契約に基づいてインターンシップを進めています。

まず期間としては1年間を超えないということと、日本語が当然必要になるので、主な対象は応用外国語学科の日本語コースの学生です。ただし観光科の学生で日本語のレベルがN3程度あれば、その学生も対象になります。それから、インターンシップは教育課程の一部であって、それが卒業要件を満たす単位として認定されるということです。実は学生にインターンシップをさせることについては、台湾政府の方針でもあり、政府からは数年前からインターンシップをやりなさいということを言われておりました。ということで、昨年度の4年生は



インターンシップを必修にしたわけです。ただ、少し問題がありまして、今年はまた選択科目に戻したのですが、基本的には従来4年間で行っていた日本語教育を3年で終えて、4年目は日本にインターンシップに行きなさいということです。1年間日本で働くことが4年目の単位となって、インターンシップの終了と同時に卒業という体制をとっています。

また、インターンシップの目的ということでは、中華圏からの日本を訪れる観光客対応のお手伝いができるのではないかとすることがあります。日本では人手が足りなくて苦勞されているところが多いということで、今の段階では台湾からのインターン生をぜひ引き受けたいとおっしゃってください。企業さんがたくさんあります。我々もぜひ学生をインターン生として使っていただきたいということで、双方のニーズがうまくマッチしている状況で、このインターンシップが行われています。

日本でのインターンシップの流れ

ではインターン生として来日できるまで、

こういった流れになるかというと、2月の旧暦の正月（春節）が明けた頃、3月くらいから面接と入管に申請する書類の準備を始めます。この書類の準備ですが、仲介業者さんを通すところを日本側では基本的に行政書士さんが行いますから、1件につき、東京ですと8万～9万円かかるそうです。ただそれを払っても、学校が準備する書類を日本の行政書士さんが揃えてくれるわけではないので、我々が準備する書類についてはほとんど変わらないんですね。また、教育課程の一環としてやっているのに、第三者機関に学生がお金を支払う形になるのは、こういったものかという自省の念もありました。

また、仲介業者さんを通してしまうと、学校と企業がお互い顔の見えない関係になってしまいます。何かトラブルがあっても、インターン先企業さんが連絡をとるのは仲介業者さんで、我々が状況を掴むまでが遅くなってしまいます。

ですから、これは良くないということで、今年度からは我々が企業さんを訪問して、直接契約を交わすことにしました。自分でやるということは、当然受入れ先企業にも書類の準備をしていただくことになるので、それもこちらできちんと、こういったものをこういった形で提出してくださいと説明をしなければなりません。

ん。そこまで我々がやる必要があるということですね。

そして、4月から5月くらいにかけて入管に準備した書類を提出し、6月に在留資格認定証明書が交付され、ビザが発給されるわけです。

インターン期間としては7月1日から翌年の6月30日までという形で契約書を作成しています。学生は日本で1年間インターンシップをするわけですが、その間我々が少なくとも1回はインターン先に視察に行きます。企業さんのほうも仕事で台湾にいらした時は大学に顔を出していただくなど、お互い顔が見える形で1年間を送っている状況です。

インターンシップ契約のポイント

企業さんとの契約時に重要なのは労働条件というところなのですが、難しいのはこちらから必ずこうしてくださいと言えないところです。ところが、初めて引き受けてくださるところからは、相場はどのくらいなのかと質問されます。そこで相場は無い

インターンシップの流れ

2018年							2019年
2月	3月	4月	5月	6月	7月～8月	9月～1月	1月～6月
新学期開始（2月中旬）	面接（前倒しも可） 入管申請書類準備	入管に申請書類提出		在留資格認定証明書交付 ビザ発給	夏休み開始 ↓ 日本渡航 インターンシップ開始（夏期）	大学教員による実習先視察 インターンシップ（前期）	インターンシップ終了 ↓ 帰国 インターンシップ（後期）

と言ってしまうと話が進まないのです、一応前回はこういう形でしたというお話をしています。

まずインターン生なので「給料」という言葉は使わず、報酬や奨学金、生活費保証という言葉を使っています。そして金額については意図的に十数万円と書いて提示するのですが、すると「十数万円とはどのくらいですか?」と聞かれますので、「13から14くらいが多い」というふうにお答えしています。

ただし、注意点として、報酬から所得税が引かれるということがあります。ですから、あまり報酬を低くしてしまうと、手取り額が10万円を切ってしまうことがあり、すると今度は入管からストップがかかってしまうんです。

また、当然学生同士で情報交換をしていますから、インターンシップ先によって報酬に差があるのは良くありません。そこで今は受入れ先企業さんとバラつきがないように出来るだけ調整をしています。

渡航費は学生が負担してそれに大学が一部補助をするという形になっています。保険については各自に大学が1年間の学生損害保険をかけます。それ以外に日本では国民健康保険があり、これについては負担しますという企業さんもあるのですが、私たちは学生が自ら支払うという形にしています。

勤務時間は1日8時間、月160時間くらいを基本としていますが、旅館やホテルですと時期によって忙しさに差がありますから、これは平均してということで、忙しい

時期には8時間を超えることもあるよと学生には話しています。休日については週1～2日ということで、労働時間に対してこれくらいはいただきたいということをお願いしています。

さらに、これもポイントになることですが、受入れ先が旅館やホテルの場合、宿舍があって、かつ賭いもあるということで受け入れ態勢が整っているわけです。ところが非宿泊業ですと、その点で少々難しい時があります。

また、賭いがある場合も回数が違ったり、勤務日だけだったりなど、いろいろなケースがありますが、基本的には1日2食支給という形でお話をさせていただいています。

インターンシップのためのビザ申請

日本でインターンシップをする場合に必要なのは、特定活動ビザの“3”で、その中の一つがインターンシップと言われるものになっています。このビザをとるために、法務省が指示する書類を入管に提出することになります。

提出書類は、企業と大学が双方で交わした契約書、この学生をインターン生として日本に派遣することに同意しますという我々が作成する承認書と推薦状、それからインターンシップで何単位取得できるのかを明記した書類、修業年限を明らかにする書類などです。一方で企業の方には日本での活動内容や期間、報酬、待遇などについての書類を用意していただきます。

ここで問題なのが、まず決まった書式が

ないということですね。ですから一から自分たちで作ることになるわけですが、学内では中国語か英語でしか書類を出せないの、その日本語版を作って両方を提出します。入管の方は日本語の書類を見るのですが、台湾の大学なので中国語のものも必要になるわけです。この辺り、最初は苦労しました。

ビザ不交付という問題

今年度は42人が7月からインターンシップを始める予定だったのですが、今回は不交付というケースが出てきました。難しいのは、指示された通りの書類を提出しても、どこの入管でどの担当の方がどの時期に見たかによって結果が全く違うということです。

我々は過去に入管から追加資料として必要だと言われたものをいろいろと用意していて、請求があればすぐに提出できる態勢でいます。しかし今回は最終的に学生の専門と仕事の内容が合わないということで、不交付になった学生が数人いました。今その学生をどうするかということで、対応を迫られています。また、企業の方にはお忙しい中、何度も役所に足を運んでいただいております、本当に申し訳ない気持ちです。

この不交付ということについては、業者さんに依頼してもダメなものはダメなんです。ですから、そういうリスクが常にあるということを学生はもちろん親御さんにも理解していただく必要があります。いざ日本に行けなくなると、親御さんからお怒りの電話がかかってきます。教師がちゃ

んとやってないからではないかと言われるますが、本当に、その気持ちもよくわかります。そういったところでの難しさはあります。

企業の開拓について

企業さんの開拓については、先に申し上げたように一つ提携先ができてインターンシップがうまく行きますと、同じ地域の方やお知り合いの方の紹介で広がって行くことがあります。まさに我々はそういうケースでした。

それから、大学のある高雄市と熊本市がちょうど姉妹都市提携をしたということがあって、観光連盟のほうに我々が出向いて、企業さんを紹介していただけないかというお願いをしたりもしました。

仲介業者さんを通すと、その時々、日本中人手が足りないところに行かされるということがあります。去年、ある学生のインターン先が沖縄の石垣島ということでチケットを買っていたのですが、出発の3日前に「あそこは人が足りているから、久米島に行って欲しい」と言われたケースもありました。

自分たちで手続きをしても、先ほどのように不交付になるというケースがありますから、なかなか100%確実に学生を日本に派遣できるというわけではないのですが、現在それを目指して取り組んでいます。

私の話は以上です。ありがとうございました。

報告4▶カンボジア

王立プノンペン大学の日本語教育事情について

王立プノンペン大学 外国語学部日本語学科 学科長 ロイ レスミー先生

今日は4つのポイントについてお話をしたいと思います、まずカンボジアはどんな国なのかということをお話しします。

東南アジアの中のカンボジアですが、どこにあるかというと、タイやベトナム、ラオスと接していて、いつもお世話になっています。小さい国ですが、海もあります。国の規模も人口も大きくないので、全体的に穏やかで過ごしやすいといいますが、日本のように台風や地震もあまりないので、国民がのんびりしているというのがカンボジアです。

カンボジアという国

カンボジアの地図を見ると、中国のチベット高原から流れてきたメコン川がプノンペンまできて、ベトナムに行く手前で逆流してアンコールワットのあるシェムリアップに流れて行っています。ここにはトンレサップという琵琶湖の何倍も大きな湖があります。カンボジア人はたぶん何もなくても、その魚だけ食べていけば生活できたというのが昔の話です。今はいろいろありますから、がんばらなければ生きて行けません（笑）。



カンボジア データ

- ▶ 面積: 181,035 km² (日本の約半分)
 - ▶ 人口: 約1,531万人 (内、労働人口: 約700万人) (2014年)
 - ▶ 主な言語: クメール語
 - ▶ 主な宗教: 仏教
 - ▶ 季節: 雨季と乾季
 - ▶ 一人当たりのGDP: 934ドル (2012)
 - ▶ カンボジア日本人商工会の会員企業数は168社で (2014年)、5年前の3.7倍。ASEAN諸国の中では、会員企業数の伸び率最大。
 - ▶ 日本の日本語学校に留学中の人数: 175人 (2016)、前年の比較、42.3%増加。日本留学学生数増加国の中の16番目。
- 全人口のうち24歳未満人口が53%を占める。

カンボジアの国土は日本の半分くらいで、人口は東京と同じくらいです。表はデータが少し古いのですが、実際の労働人口はもう少し多くなります。宗教は仏教で、季節は日本と違って雨季と乾季しかありません。GDPはまだ低いのですが、カンボジア商工



レスミー先生

会議所のデータを見ると、日系企業の増加が目立っています。

日本に来るカンボジア人留学生はまだ少ないですが、ここ最近急増しています。カンボジア人は24歳未満の人口が全体の53%もあり、ここが日本と違うところです。この数字を見ると、日本語教育をがんばらなければという気持ちになります。この53%の若者たちをどう育成するかがカンボジアの課題であり、皆様のお知恵を拝借させていただければと思います。

カンボジアにおける日本語教育

カンボジアにおける日本語教育は、第二次世界大戦時、日本軍による日本語教育というのが少しありましたが、本格的にスタートしたのは1960年代になります。そして、1970年代に国際交流基金による日本語教師

の派遣がスタートしました。

プノンペン大学は1960年に設立され、その頃からアジアの経済は発展していくわけですが、運悪くカンボジアは1975年からボルボト時代になってしまいます。当時は日本語教育どころかカンボジア全土の教育機関が、幼稚園から大学まで閉校されてしまいました。教育の空白期間が3年も4年もあると、その国の人々がどうなるか、みなさんおわかりだと思います。

ちょうど私はそのボルボト時代になる直前に生まれてきましたから、いろいろ大変な思いをしました。ボルボト時代が終わったのは1979年ですが、カンボジアでは当時の人口700万人のうち、1/3が殺されてしまいました。大学の先生、研究者、軍人、芸術家、医者…などの知識人、専門家は全て殺されてしまって、生き残ったのは農家の人たちだけでした。

1979年ボルボト時代が終わった後も、再開された語学教育はベトナム語とロシア語だけで、その他の日本語や英語教育といったものは行われませんでした。もしボルボト時代が終わってすぐに日本語教育が始まっていたら、カンボジアの日本語教育は今もっと発展していたと思います。

その後日本語教育が再開されたのは、ちょうど私が大学1年生だった1994年でした。この時、JICAのプロジェクトである青年海外協力隊の日本語のコースが始まりました。当時のプノンペン大学には日本語学科はなく、私の専攻は理系だったのですが、昼休みに協力隊の先生と一緒に日本語を学びました。最初、44人で始まったクラスは私が

カンボジアの日本語教育背景

- ▶ 第2次世界大戦ごろ:カンボジア全国で日本軍による日本語教育
- ▶ 1960年代:1962年に王立プノンペン大学で国際学友会の派遣された日本人教師による中等日本語教育
- ▶ 1970年代ごろ:1972年から王立プノンペン大学で国際交流基金の派遣された日本人教師による日本語教育
- ▶ ボル ポット時代(1975-1979):カンボジア全国全ての学校が閉校された
- ▶ 1990年代:1993年に王立プノンペン大学での日本のNGO(REIYUKAI)の教師による日本語教育、翌年同大学でJICAの派遣されたJOCV(青年協力隊)の教師による日本語教育
- ▶ 2000年代:2005年に王立プノンペン大学日本語学科設立(日本語主専攻4年間学士プログラム)現地のカンボジア人教師と国際交流基金の派遣されている専門家による日本語教育

卒業するころには3人だけになっていましたが、それがプノンペン大学で日本語を学んだ最初の卒業生でした。

その後も日本語の授業は続けて行われていましたが、それは単位にはならない、プノンペン大学の学生なら誰でもとれるというコースでした。そして、2005年、関係者のがんばりがあり、ついに王立プノンペン大学に学士プログラムである日本語学科が設立されたわけです。

王立プノンペン大学と人材育成

3番目は王立プノンペン大学の概要です。王立プノンペン大学はカンボジアの国立大学で、国内では最も歴史が古く、学生数も最大の2万3000人ほどです。総合大学で様々な学科、専攻があり、日本語学科は外国語

学部の中の1つです。

外国語学部の中には6つの学科があり、日本語学科はがんばってやっと2番目まで上がってきました。日本語学科のライバルですが、一応中国語、韓国語学科もあります、それらはライバルと考えたくありません。ライバルにしたいのは英語学科です。英語学科はプノンペン大学で理系のIT学科に次いで二番目に学生数が多い学科ですが、その英語学科に負けたくないと思っています。人数では当然勝てませんが、育てる人材については負けたくないんです。

どうして負けたくないかというと、英語だと目指すところがアジアではないからです。カンボジアの内戦が終わって人材を必死に育てて、その結果がどうして欧米なのか？ 外国に関わるのならアジアの仲間になればいいじゃないかというのが私の願い、戦いです。どれほど戦えるかはこれからの課題ですが、できれば負けたくないですね。私はこのことを学生に言い続けています。

英語学科に入学してくる学生は、すでに中級、上級レベルの実力を持っている人たちです。一方で日本語学科に入ってくる学生は、「あいうえお」さえわかっていない人たちです。そうした学生を引っ張って、大学を卒業させて企業で仕事ができるようになるまで育てるのがいかに大変か。

ところが人間というのは不思議で、できると思えばできる、できないと思えばいつまでもできないんです。ですから、学生達にはがんばらないとダメなんだということ



ブノンペン大学外国語学部の風景



完成した日本語学科の建物

を、毎日のように言っています。人に助けを、毎日のために自分が努力をして見せないといけない。これは日本、カンボジアだけではなく、世界中一緒ですね。

確かに日本語は難しいです。でもあなたがこの学部に入ってきたのには目的があるはずだと。それを叶えるため一生懸命やれば、必ずできるというのが、学生にいつも言っていることです。時々、学生は大変だろうなあとと思います。でも言わないと彼らは手を抜いてしまいます。ですから、これまでがんばって叱咤激励してきました。

日本語学科は85名の学生でスタートしましたが、今600名になりました。他国の先生と同様にやはり教師不足という問題はありますが、文句を言わずがんばるしかない

と思っています。日本人の友達は「学科長だから暇でしょ？」と言うのですが、「とんでもない！やる事が次々あるのよ」と言って、がんばっています（笑）。

そのがんばった結果ですが、キャンパスに日本語学科の建物が出来ました。この建物はカンボジア政府のお金ではなくて、日本のある社長さんのお力で建てていただいたものです。がんばっていれば必ず誰かが評価してくれる。そう思っていたことが実現したんですね。あとは私たちがその期待に応えて、いかにして学生を育てるかということです。この建物が出来て、ちょっとだけ英語学科のライバルになれたかなと思っています（笑）。

カリキュラムと日本との交流

卒業生のほとんどはお陰様で日系企業に就職しています。カンボジア国内だけでなく、日本国内の企業にも就職しています。

ただし人材育成については、日本語が出来るようになって仕事について、それで終わりではありません。まず日本語が出来る

ようになって、そこから広げていこうということです。日本語を使ってさらに深い研究を進めていけるような優秀な人材の育成を目指しています。

カリキュラムを見ると、ちょっと勉強時間が多いのですが、入学してきた時は「あいうえお」もわかってない学生たちですから、1年生の時はいろいろ大変です。2年生以上になるとだんだん慣れてきて、日本語だけでも通じるようになっていきます。

学生支援制度、奨学金などについてはこれからですね。現在は日系企業や日系団体などにお世話になっていて、地方出身の学生の学費援助などをしていただいています。これは学生数が増えている一つの要因にもなっています。

国際交流については、国内・海外での交流など、いろいろと行っ

ています。最近では、3年生の学生たちを毎年50人ほど日本に送り、1年間学んでもらい、日本語学科に戻ってきてもらうというプログラムを実施しています。カンボジアだけでは日本語教師が足りないということと、私たちは日本語教育専門ですから、企業の要求に応えられるような人材育成についてはまだ課題がたくさんあります。日本に送った学生は日本の大学のいろいろな先生方、学生との交流の中で、自らが肌で感じて伸びて帰ってきてくれますから、帰国後はみな良い企業に就職していますね。そ

王立ブノンペン大学日本語学科と人材育成

外国語学部の外国学科の6つの中、日本語学科は2番目に学生数が多い。

1)学生

- ・現在約600人で、年齢は19歳～35歳
- ・入学した時、日本語学習経験(0レベルの学生もいれば中級レベルの学生もいる)
- ・高校を卒業して、すぐ日本語学科に入学する特待生(年齢がだいたい19～22歳)40%、社会人の生活をしながら、日本語学科に入学する一般学生(年齢がだいたい25～35歳)60%
- ・日本に留学中の人数:62人

2)教師

- ・人数15人(内日本人5人)
- ・日本語教育経験(0の教師もいれば12年間の教師もいる)

3)卒業生

- ・今までの卒業生の数:500人(その内、日系企業に就職している人数は約90%)

16

日本語学科のカリキュラム 4年制(習得単位:学士)

学年	科目種類・内容	学習時間 (8学期)
1	一般教養・英語(クメール語と初級英語での授業)	384
	基礎日本語(初級日本語前半)	192
2	専門日本語・日本事情(初級日本語後半と中級日本語後半と日本の文化、習慣について学ぶ)	640
3	専門日本語・言語学(中級日本語後半と上級日本語と日本事情と情報技術と言語学)	640
4	日本語教育専攻(言語学と日本語総合と情報技術と教授法と日本文学と卒業論文「日本語研究」)	576+
	ビジネス日本語専攻(日本文学と日本語総合と情報技術とビジネスコミュニケーションスキルと日本経済と卒業論文「日本研究」)	576+
総額時間数/習得単位数		2432+ 136単位以上

35

の他に、時々カンボジアの商工会にお願いして、外部講師…日本の製造、サービス業などの社長さんに来ていただいて、講義などをしていただいています。

就職支援活動

ほかに就職、留学紹介ということも行っています。カンボジアの大学にはキャリアセンターのようなものがまったくありません。それは、大学を卒業すれば、公務員になれるのが普通だったからです。ところが



最初の日系企業による就職説明会（2009年）

それは昔の話になりつつあります。今は学生数が急増するなど事情が変わってきていますから、むかし通りにやっていると親御さんの期待に応えることはできません。貧しい家庭も多いカンボジアで、親御さんはがんばって子供を大学に行かせたわけですから、我々教育を行う側も責任を持って学生の卒業後を保証しなければならないわけです。ですから、日系企業にお願いしたり、商工会議所にお願いしたり、日本人会にお願いしたり、なるべく関係のみなさんと親しくなって、日本語学科のことを、日本語を学ぶ学生のことを理解してもらうための活動をしています。

2009年に一期生向けに就職説明会を行いました。当時カンボジアに進出していた日系企業30社に対して、卒業生は45名でした。実は各社とも具体的な採用予定はなかったのですが、学生のモチベーションのために参加しましょうと、各企業が私たちの希望に応じてくれたわけです。そうしたことから一期生で日本企業に就職した学生はわずか、二期生も半数程度でした。

事情が変わったのは2012年に日本の皇太子殿下がカンボジアを訪問されてからです。殿下は私たちの日本語学科にもいらしたのですが、その頃からカンボジアに日系企業が増えはじめて、今は300社ほどになっています。2009年当時は、関係機関を必死にお願いして回っていたわけですが、今は逆に企業の方から「先生お願いします」と言いに来てくれるようになりま

した。

カンボジアの日本語学習者は今、どんどん増えてきています。カンボジアを始めとした東南アジアの人が日本語を学習する動機は、もちろんアニメやマンガという人もいますが、そこは欧米の学習者と違って、多くは就職だと思います。しかし、日本語を使って仕事をするというのは簡単なことではありません。言葉の裏にある文化的背景にも大きな壁がありますし、漢字も難しい。私も漢字が難しく、何度も勉強を止めてしまおうと思ったことがあります。でもその時、日本人の大学生に「日本人だっかわかってないよ」と言われて、「だったら、外国人の私がわからないのは当たり前じゃない」って、気持ちが楽になりました。そして、いつかわかるだろうと思っていたのですが、そのまま、いつの間にか今日になってしまいました（笑）。

発表はこれで終わらせていただきます。
ありがとうございました。

報告5 ▶ タイ**泰日工業大学の日本語教育事情**

泰日工業大学 語学・教養課程部 日本語講師 スワッタナー デンスパー

泰日工業大学

泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology=TNI) における日本語教育事情について発表いたします。

まずTNIの紹介をいたします。TNIは泰日経済技術振興協会 (Technology Promotion Association(Thailand-Japan)=TPA) という、かつて日本留学を経験したタイ人たちが、日-タイ間の交流とタイの技術振興のために作った組織によって2007年に設立されたタイの新しい大学です。

その名称に“泰日”と名付けられている通り、タイと日本両国の教職員の協力による教育が提供され、タイにいながらにして日本の高度な工業技術と経営の実践的な知識を学ぶことが出来る唯一の大学です。現在大学には工学部、情報技術学部、経営学部の3つの学部と、私が所属している語学・教養課程部が存在しています。それぞれの学部にはコースがあり、工学部には5コース、情報技術学部には3コース、経営学部には8コースが開講しています。また、今年から英語で授業が受けられるインターナショナルプログラムがそれぞれの学部には1コースずつ、計3コース開設されました。そのほか、本学では社会人を対象にした大学院の修士課程6コースも提供しています。この修士課程は土日に授業を開講しており、



スワッタナー 先生

仕事を続けながら週末授業を受けて卒業することが可能です。

語学・教養課程部の日本語教育

次に私が所属している語学・教養課程部について簡単にご紹介します。語学・教養課程部は全学の一般教養科目を担当しています。英語学習は2年間必修、日本語は2年半必修となっており、これら全ての外国語教育を担当しています。

全学の日本語の授業を担当することもあり、日本語科の教員数は36人と、とても多

泰日工業大学について

▶ 19コース

工学部

- ・自動車工学 (AE)
- ・生産工学 (PE)
- ・コンピューター工学 (CE)
- ・経営・ロジスティクス工学 (IE)
- ・電気工学 (EE)

情報技術部

- ・情報技術学 (IT)
- ・マルチメディア技術学 (MT)
- ・ビジネス情報技術学 (BI)

経営部

- ・工業経営学 (IM)
- ・日本語経営管理 (BJ)
- ・ビジネス・工業経営学 (BM)
- ・国際経営学 (IB)
- ・会計学 (AC)
- ・日本の人事管理 (HR)
- ・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメント学 (LM)
- ・クリエイティブ・マーケティング学 (CM)

インターナショナルプログラム

- ・データサイエンス・解析学 (DSA)
- ・国際ビジネス経営学 (IBM)
- ・デジタル工学 (DGE)



JBJコース

日本語の授業の630時間は、以下のとおり。

基礎日本語 (360時間)

- ▶ 1年生から2年生対象
- ▶ 週6時間 X 7週 X 8科目

ビジネス日本語 (180時間)

- ▶ 3年生対象
- ▶ 週3時間 X 15週 X 4科目

日本事情 (90時間)

- ▶ 4年生対象
- ▶ 週3時間 X 15週 X 2科目

3年次に、
専攻を選択

- 1) マーケティング
- 2) ファイナンス
- 3) 日本語



TNIの日本語コースの目標は職場での基本的なコミュニケーションができるようになることです。JPNコースは工学部、情報技術学部、経営学部の1年次から3年次前半の2年半、週2コマの計225時間日本語を学習し、日本語能力試験(JLPT)のN4レベルの口頭コミュニケーション能力の育成を目指します。

JPJコースは経営学部の日本語・経営管理コースの1年次から4年次まで、約630時間日本語を勉強して、N3レベルの口頭コミュニケーション能力の育成を目指します。

いです。ほかには社会学系の教員が在籍しており、地域社会やアセアン社会など、教養科目を担当しています。

新入生は毎年1000人ほど入学し、3学部19コースに分かれて在籍しています。このうち18コースの約850人が「JPN」と呼ばれる全学部用に開講されている日本語の授業を受けています。残りの約150名ですが、彼らは「JPJ」と呼ばれる、日本語経営管理コースの学生のために開講される日本語の授業を受けます。教師もJPJの担当と、JPNの担当に分かれて教えています。このように本学に入学した学生はJPN、JPJという日本語のコースを通して全員が必修で日本語を学びます。

今日はこのJPJコースに絞って説明させていただきます。

日本語・経営管理専攻コースの 日本語教育 (JPJコース)

経営学部の日本語・経営管理専攻の学生にとってのメインの勉強はマーケティングや会計学といった経営学の勉強です。それに加えて日本語の授業が計630時間行われることになっています。4年間の授業のパーセンテージをみると68%が経営学で、残りの32%が日本語ということになります。

JPJコースでは、1年生と2年生は基礎日本語を学び、3年生でビジネス日本語を4

JBJコースの日本語副専攻の科目



学年	科目
3年生	1) マルチメディアを通じた日本語 2) 読解 3) JLPT N2対策
4年生	1) スピーチ・プレゼンテーション 2) 日・タイ翻訳・通訳

科目勉強し、4年生では日本事情の科目を2科目勉強します。

また、3年生になると、日本語・経営管理学専攻の学生は副専攻を選ばなければなりません。この副専攻にはマーケティング、ファイナンス、日本語の3つがあります。

JPJコースの日本語副専攻はまだ3年前に始まったばかりで、中級レベルのコミュニケーションが出来ることを目標としています。日本語副専攻の学生は一学期30人ほどで、N3を持っている、もしくは日本語の成績がB+以上である者が優先してこの副専攻を選択することができます

日本語副専攻の学生は先ほどの科目に加えて、5つの科目を勉強します。

日本語スピーチと プレゼンテーション

ではここからは私が昨年担当していた4年次で学ぶ「日本語のスピーチとプレゼンテーション」の授業についてご紹介します。

私がこの授業を担当した

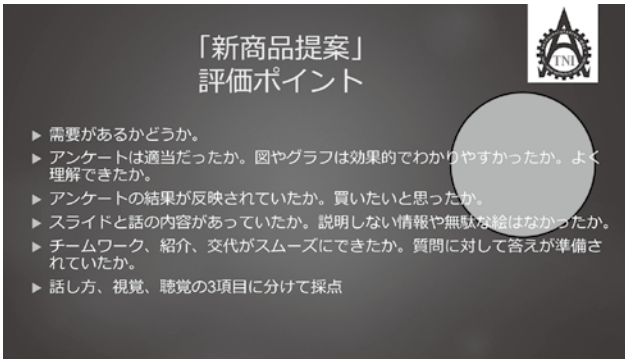
のは2016年からですが、今回は2017年度の授業のデータに基づいてお話しします。学生は先ほどお話ししたようにJPJコースの日本語副専攻の4年生30名です。この授業は、私タイ人教師ともう一人の日本人教師と一緒に教えます。筆記試験はなく、スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー試験で評価します。

JPJコースの日本語副専攻の学生は、実際卒業後日本語を使って仕事をする人が多いです。営業部や開発部に入ってグループディスカッションをしたり、商品のプレゼンテーションをしたりしなければなりません。そのため、スピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアウトプットに慣れることが重要になっています。この授業では、何度も人前で日本語を話す機会を与えることで自分の良くない点に気づき、自信を持って人前で話すことが出来るようになることを目指しています。

授業の内容は主にスピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションの仕方と、テクニックです。実際にプレゼンテーション



プレゼンテーションの様子



プレゼン評価基準

やスピーチ、または小グループでのディスカッションをして、口頭表現能力を鍛えます。そして改善するために毎回友達とお互いのスピーチについて評価・反省し合い、表現力やパフォーマンス力を伸ばします。

グループの新商品プロジェクトでは、プレゼンテーションの手順を知り、実際に行ってもらいます。そのためにまず発表の表現などを授業で教え、プレゼンテーションの流れを説明します。それから計画シートを配って段階的にスクリプトを書いてもらいます。そして私たち教師が学生と一緒にスクリプトをチェックして、コメントをします。

評価ポイントとして一番重要なのは、プレゼンテーションがわかりやすかったかどうかと、聞いた人がその商品に興味をもったかということです。

まず学生の成果についてですが、全体的に学生はアウトプットに少しずつ慣れていきました。自分の発表時のビデオを見て、良くなかった点に気づき、その点に注意しながら話せるようになりました。また、小グループの討論では緊張し過ぎることなく、

自分の意見が言えるようになりました。そして、新商品提案プロジェクトを通じて、学生はデータの収集の仕方、発表の構成の流れなどを理解することが出来、自分で考え・開発したものを紹介することも出来ました。

大学卒業後の進路

最後に大学卒業後の進路についてご紹介します。TNiを2016年に卒業した学生は728人です。内訳を見ると449人と半数以上の学生が就職しています。次が進学の75人で10%、就職の手続き中が63人で9%、連絡が取れずに不明等が141人で19%でした。

卒業生の就職先企業については、日系企業または日本関連企業は40%で、タイの企業または外国の企業が60%でした。ただしこの60%のタイおよび外国企業の多くは日本企業と取引をしている企業です。

次に卒業後の進学先についてです。2016年のデータがまだ出揃ってないため、2015年の進学・進学手続き中の卒業生のデータに基づいてお話しします。ここではタイの大学に進学している卒業生が一番多く見られました。二番目は日本の大学ですが、まずは日本語学校に留学する卒業生が毎年だんだん増えています。そして3番目は日本以外の外国の大学でした。

簡単になりますが、これで私の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

報告6 ベトナム**フエ外国語大学の日本語教育事情について**フエ外国語大学 日本語日本文化学部 学部長 **グエン・ティー・フオン・チャー****人材豊富な古都フエ**

まず簡単に私の故郷フエについてご説明します。フエはベトナム中部にある小さな町ですが、京都と同じように最後の皇帝が住んでいたところで世界文化遺産は5つもあります。その代わり、企業や工場はあまりありません。その代わり文教の町と言われていて、8つの大学があります。

以前、日本人の知り合いに、どうして企業はフエに来ないのかと聞いたことがありますが、彼は、「工場を作ると汚染されてしまう。フエは美しい観光地のまま残しておくべきだ」と言っていました。もちろんそれは良いことだと思いますが、学生たちにとっては就職先が少ないということで、少し問題です。

フエは人材が充実しています。うちの学生も真面目で勤勉です。ちょっと恥ずかしがり屋で、最初はあまり話せないと思いますが、慣れると一生懸命どんどん話してくれると思います。

フエ外国語大学の日本語教育事情

次はフエの日本語教育についてお話しします。今、私が所属しているフエ大学の日本語学部は、1993年に作られた「フエ南学



チャー先生

日本語クラス」から始まりました。これは日越文化協会という組織の援助によって運営された2年間のコースでした。2年間ずっと日本語しか使わないという、本格的なコースでしたが、残念ながら2001年に経済的な事情で閉校されてしまいました。しかし当時もフエには日本語を勉強したい人が大勢いましたから、2004年には三菱商事がフエ師範大学と協力して、「三菱商業日本語クラス」を開き、南学日本語クラスと同じ規模で授業をおこなうようになりました。

次に私のフエ外国語大学についてお話し

フエ外国語大学	授業内容
• 2004年に設立された • 8学部がある 英語学部:2800人 フランス語学部:350人 ロシア語学部:80人 中国語学部:850人 日本語学部:800人 韓国語学部:400人 ベトナム学部:300人 国際関係学部:300人 } 61周年記念日	• 4技能:聴解、読解、作文、会話、発音練習 • 日越一越日の翻訳・通訳 • 文法論、語彙論、音声論 • 日本事情、日本文学、日本文学史、ビジネス日本語

します。フエ外国語大学には8つの学部があります。このうち一番学生の人数が多いのは英語学部で、学生数は2800人くらいです。以前非常に人気があったフランス語は、最近は学生数が減っていますが、歴史的には英語学部とともに一番長く、今年61年目を迎えました。日本語学部の学生数は一昨年まで英語に次ぐ2番目でしたが、残念ながら去年からは3番目になってしまいました。なぜなら中国語を勉強したい学生が急激に増えているからです。韓国語も非常に人気があって学生数を延ばしており、日本語担当としては少しくやしいところです(笑)。

次は日本語学部についてです。日本語学部の創立は2006年でまだ11年の歴史ですが、現在の学生数は800人ほどです。プラス第二外国語として勉強している学生が300～350人ほどいます。しかしベトナム人の日本語教師は19人しかいません。そのうち5人は留学中なので、実質14人です。日本人教師はJICA派遣の先生が一人だけで、近々もう一人派遣していただく予定です。教師が少ないので、一人あたりの学生数はかなり多くなり、45名から55名くらい、

科目によっては65名になるクラスもあります。受け持つ科目数は一人あたり週平均30コマで、いろいろな科目を教えています。

また私たちの学部にもITという科目がありますが、私たちはITについてあまり詳しくないので、ただ用語などを簡単に教えています。

日本語は難しいので、まず「日本語を愛して勉強しなさい」と私たちは学生に言っています。恋人と同じように日本語を愛しないと勉強は進みませんよと。そのため日本に関わるいろいろな活動も行っています。11月は「先生の日」、10月「お正月パフォーマンス」、2月には「ミス桜」というものもあります。3月は活動が一番多い月で、例えば「日本語スピーチコンテスト」は毎年行っています。ここで優勝した学生はハノイで行われる大会に参加することができるのですが、毎年私たちの学生はそこで入賞して、賞である日本研修を実現させています。

そして4月にはキャンプや日本の大学との交流会、「ミニフエ」という日本文化紹介のイベントも開催しています。これは職業体験型のイベントで、学生たちが日本の民芸品や料理を作り、それを来場者に販売す



(左上) ミス桜

(右上) 日本語スピーチコンテスト

(左下) フェスティバルのブースで日本料理を売る学生たち

るという日本の文化祭のような催しです。

また、二年に一度開催される「フェスティバル」には、うちの学生たちも参加して、日本料理のブースを出しています。

課題と希望

現状の課題については、やはり教師不足ということがあります。また、フェには企業が少ないので、就職する際は遠方の街に行かないといけないうということもあります。

また、日本語を学んでいる学生は、みな一度日本に行ってみたいと思っています。ある印象に残っている学生は、とにかく日本に入国して桜を見て、日本の土に触れたらすぐ帰ることになっても自分は幸せだと

言っていました。そういう学生たちに日本に来るチャンスを与えてあげたいと思っています。

日本に行ける学生たちは、勉強に対する意欲がとても強くなっています。逆に目的がはっきりしない学生は意欲が薄く、そうなるといろんな問題が起こります。

私たち教師はどうしたら学生に効果的に日本語を教えられるか。どのように、学生のやる気を起こさせるか、どうしたら学生が熱心に継続して勉強してくれるか。そして、卒業生にどのように日本語を使う仕事を提供できるのか。

今回日本に来て、この懇談会に参加して、それが少しわかったような気がします。これからぜひよろしくお願いします。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

②9 日本の大学との交換留学

水谷光一

TNI が夏休みになる毎年3月から5月は、大量の学生が日本の大学や ABK 学館日本語学校等に短期留学する時期である。TNI の新学期は6月中旬からで、日本の新学期は4月からなので、2～3か月間日本の大学・語学学校に短期留学するのには時期的にも都合が良いのである。

今回はそうした日本の学校との留学交流の中から、埼玉県行田市にある「ものづくり大学」との交流を取り上げて見たい。

TNI とものづくり大学の交換留学は、毎年4月から7月に行われている。TNI の工学部から4名が2か月間（2名）と4か月間（2名）の2つの期間に分かれて、ものづくり大学に留学している。留学を終えて帰って来た学生はとても日本語力が伸びている。一方毎年ものづくり大学からは6月中旬から8月の2か月間、製造科と建築科の学生4名がやって来る。彼らは TNI で1か月間タイ語を勉強した

後、在タイ日系企業でインターンシップをする。

最初にこのプログラムでものづくり大学から4名の学生がタイに来たのは2011年だった。製造工芸学科の学生さん2名、建設工芸学科の学生さん2名で、それぞれ Mitsubishi Electric Automation Thailand (MEATH) 社と Ch. Karnchang 社（チョー・カーンチャン社）に2名ずつ派遣されインターンシップを行った。

当時、製造学科の学生だった牧海佑（まき・かいすけ）君に TNI 主催の『日系企業



ものづくり大学の入学式に参加した TNI 短期留学生 4 名



TNIの制服を着てタイ語を勉強するものづくり大学生。前列右が牧君



短期留学を終えたものづくり大の4人を空港で見送る TNI の学生たち

対象勉強会』(2018年6月22日)の会場で久しぶりに会った。この勉強会は年に2回行われている。主にタイの専門家に日本語で話をしてもらい、現地で働く日本人ビジネスパーソンにタイで起こっているホットな話題の周辺事情を勉強してもらおうという取り組みである。TNIにとってスポンサー企業へのお礼となり、新たなサポート企業の取り込みにも貢献している。この日は、TPA 会長のスチャリット先生が「タイ洪水の長期展望」を、日本のIT企業の社長さんが「卒業生の日本での採用」、TNI 一期生のシリーさんが「TNI 卒業生の中核人材としての日系企業採用事例」について話した。

牧君は日系企業の駐在員として参加者の中にまぎれていた。ちょうど6月12日からTNIに短期留学していたものづくり大学学生6名も会場に来ていたため、後輩とのご対面が実現した。このとき牧君にTNIでの留学+インターンシップがその後の人生にどのような影響を与えたか聞いてみた。

以下は牧君の話だ。

「大学に入ったときから“世界と日本とをつなぐエンジニアになる”ことを考えていた。1年生だった2009年に初めてTNIからものづくり大学に来ていた学生に出会い、彼らが一生懸命に課題に取り組む姿を見て、もっと彼らに関わりたいと思うようになった。ずっとロボコンのサークルに入っていて、1年生の時からビチャイ教授(東工大留学を経て、現ものづくり大学教授のタイ人)の指導を受けていたことも大いに影響している。2011年、大学3年に進学した時、大学が海外留学希望者を募集していて興味を持ちこれに応募した。生まれて初めての海外渡航だった。TNIでの留学は日系企業でのインターンシップと併せてわずか2か月だったが、たくさんの刺激を受け、カルチャーショックの連続だった。TNIの学生は専門科目を英語のテキストで勉強していることに驚き、また当時あまり日本の学

生の間では普及していなかった Facebook をフル活用して交友関係を広めていることにも驚いた。そのような学習環境を見て、タイの学生は力のつき方がすごいものになると思ったことと、また、皆まじめだがその中にも適当な「緩さ」があって、それまで日本の大学で「ロボコン一本」という張り詰めた環境で過ごしてきた自分にはとても心地よい雰囲気だった。この TNI 留学の

経験で学生生活に新たな気持ちで臨めるようになった。留学から帰ったのは3年生の秋だったため、いったんは同級生と同じように就職活動の波に乗ったものの、3年生から始まった専門科目の鑄造が面白くなっていったため、もっと鑄造を極めたいと思い、ものづくり大学の大学院に進学を決意した。その後就職活動の時期になり、将来タイで働けるところ、鑄造の専門会社の二点を重点に探したため、おのずと就職対象の会社が絞られ、最終的に KIKUWA（株式会社菊和）に就職した。技術の世界では何事も一人前になるまで3年かかると言われており、なかなか外に出ることはできなかったが、3年目の去年タイでの研修プロジェクトの公募があり、早速に応募した。

就職時の面接ではタイ留学のことはもちろん、学部卒業後のタイ旅行で現地法人で



ものづくり大の後輩たちと対面した牧君（左手前）

ある KIKUWA Thailand の工場を見学してきたこともアピールした。」

牧君から話を聞くと、たった2か月とはいえ、TNIでの留学がその後の人生に大きな影響を与えている事が分かる。またそれ以上にタイという国での様々な経験が彼に様々な刺激と感激を与えて、再びタイに戻り、長期滞在したいという希望を持たせたのだと思う。タイでの研修期間の半分を終えた今、「自分には会社のためにもタイの産業界のためにもできそうなことがたくさんあるような気がする」と私に語った。

TNIでの経験と、そこでの学生との交流が日本人の学生に大きな影響を与えていると聞くと素直にうれしい。ますます今後の TNI と日本の大学との交換留学が発展することを期待をしたい。

水谷光一（みずたにこういち） 2007年より TNI 学長室専任講師。1988年渡タイ。1990年から TPA 日本語教師。96年から TPA 広報課長。

Information

第9回 インドネシア市民友好フェスティバル

インドネシア関連ブース。食材、フード、物品販売。クリダヌサンタラ伝統舞踊家養成高校からの、選抜グループ、いま一番人気の女性歌手 ANDIEN も来日。

<日時> 2018年10月20日(土)、21日(日) 14:00～17:00 (受付 13:40～)

<場所> 東京・代々木公園イベント広場・本会場で開催(JR 原宿駅から徒歩7分)

<主催> 日本インドネシア市民友好フェスティバル実行委員会

<共催> インドネシア中央政府

<問い合わせ> indonesiafestival2008@gmail.com

<公式サイト> <http://www.indonesia-festival.com>

むさしの国際交流まつり 2018

多文化体験ミュージアム、外国人のための地球医療グループ、多文化カフェ、多文化ステージ等。

<日時> 2018年11月3日(土) 11:00～16:30 (受付～16:00)

<場所> 武蔵境スイングビル(東京都武蔵野市境2-14-1 JR中央線「武蔵境」駅北口そば)

<主催> 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会 TEL 0422-36-4511

<公式サイト> <https://musashino-ifes.com>

「外国人留学生就職支援研修会」のご案内

<日時> 2018年11月24日(土) 14:00～17:00 (受付 13:40～)

<場所> 国士館大学世田谷キャンパス 34号館A棟3階A308教室 (東京都世田谷区世田谷4-28-1(小田急線梅ヶ丘駅 徒歩9分))

<参加対象> 外国人留学生の就職支援・指導に関わっている、または関心のある学校関係者

<プログラム>

1. 発表① 「日本企業が留学生に期待する役割と、求める能力とは」
「就職が決まる留学生、決まらない留学生～本当に日本語力の問題なのか?～」
2. 発表② 事例発表「自校の取り組みについて」 大学、専門学校、日本語学校関係者のゲストスピーカー
3. ワークショップ (ディスカッション及びアウトプット型のワークを予定)
4. 発表③ ・留学生の就職指導・支援に関してのポイント ・就活を乗り越えて日本企業に就職した留学生内定者の事例 ※ 終了後、名刺交換会・交流会があります(16:30～17:00)

<登壇者>

*株式会社 ASIA Link (外国人留学生専門の職業紹介・就職支援事業) 代表 小野朋江 (元日本語教師)

*お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 特任アソシエイトフェロー 河野礼実

*大学・専門学校・日本語学校の各機関にて留学生就職支援に携わるゲストスピーカー

<詳細・参加申し込み> <https://kenshuukai.jimdofree.com/> (参加費無料)

<主催・お問合せ> 「留学生就職支援研修会 事務局」(株) ASIA Link 内 ☎ 042-312-1074

<協力> 国士館大学 政経学部経済学科 教授 横須賀柳子

新星学寮建替え募金

2018年8月31日現在 32,449,520 円



募金期間：2017年12月～2019年3月

< 2018/7/1 ～ 8/31 寄付者 > 稲垣史、大越英男、小木曾建、小倉美恵子、工藤幹雄、榊正義・正子、清水国夫、白石勝己、杉浦貴和子、高野靖子、藤原一枝

寄付者：計 189 名

(あ) 秋庭一衛、厚見利子、新井かよ子、新井良文、安藤哲夫 (い) 家田文隆、池森亨介、石川清、市村幸男、伊藤順、伊藤源之、稲垣史、井上駿、今西淳子、岩井秀明、岩尾明 (う) 上野長一、内田誠、宇戸清治 (え) 江口義弘 (お) 大越英男、大木隆二、大杉立、大田原康彦・真澄、大野大平、大益牧雄、小川巖、小木曾建、小木曾友、奥山節子、小倉美恵子、小田中聡樹、小野澤史、小野ちず子、小野寺武雄 (か) 加瀬勝子、勝部純基、加藤福和 (Đinh Văn Phước)、金子新平、金田和子、鹿野快男・博子、川上剛、川口善行、川崎依邦 (き) 菊地満寿美、城戸康通 (く) Nguyễn An Trung、Nguyễn đức Hòe、Nguyễn Ngọc Duyên、Nguyễn Hồng Quân、Nguyễn Thái、Nguyễn Tiến Quang、Nguyễn Văn Ân / Đỗ Văn Dũng、Quách Đình Huân、工藤 (萩野) 正司、工藤幹雄、久保哲也、熊沢敏一、倉内憲孝 (け) 計宇生・孟令樺 (こ) Ngô Diêu Kế、高乗澤 / 姜英園、五島文雄、小林正治、小林孝信、小宮信介、小山芳江、是澤優、近藤恵子、近藤壮一、近藤昇 (さ) 斉藤泰生、三枝辰男、榊正義・正子、笹村出、佐藤正文、佐藤亮一・説子 (し) 重田誠一、清水国夫、清水勇治、徐世傑 (Chee Sze Keat)、尚捷 (Shang Jie)、白石勝己、代田泰彦、新宅光 (す) 杉浦貴和子、杉浦正健、鈴木智、鈴木典之、須藤妙子 (せ) 関川弘司、関谷操男 (た) Đào Hữu Dũng、田井良知、田井亮吉、ダオ・チ・ミン (Đào Thị Minh) / ト・ブー・ルーン (Tô Bửu Lưỡng)、高橋作太郎、高橋滋、高野靖子、竹治智、田中克江、檀良 (Đặng Lương Mô) (つ) 佃吉一、土屋元子、鶴尾能子、鶴園裕 (て) テイ・メン・フェイ (Tay Meng Fei) (と) Dương Văn Quả、Trần Thanh Việt、Trương Văn Tân、Trần Văn Thọ / Tuyết Minh、Trần Việt Hùng、(一社) 東京華僑総会、外山経子、寅野滋 (な) 中島明彦、中島純司、永井和子、永井ひろみ、中曽根信・不二、中野正明、中島正喜、中原和夫、永山寿子 (に) 西岡佐代子、西川恵 (は) 萩原伊助、浜崎永壽、濱屋悦次、林均 (ひ) 永高律子、平峯克、広江重徳 (ふ) Phạm Vũ Thịnh、Phan Văn Ngân、Vũ Mạnh Huynh、Vũ Tất Thắng / Vũ Thị Tuyết、Huỳnh Mùi、符祝慧、福壤二、福井弘之、福本一、藤原一枝、布施知子 (へ) ヘン・フ・チョン (Heng Fu Chong) (ほ) 穂積亮次、堀香奈美 (ま) Mai Văn Hào、馬杉栄一、松岡弘、松原許子、松本國男、眞山静子 (み) 水田誠、湊勝昭、三代沢史子 (む) 村田進、村山富市 (も) 森尾正照 (や) 安川隆子、柳瀬修三、山川民子、山口憲明、山田真美子、山田守一、山本章治 (よ) 米田康三、米長泰、米満良暢 (り) Liên Hoa、劉錫江、林登居・ヒサ子 (れ) Lê Bá Phúc、Lê Ngọc Thảo、Lê Văn Hiến、Lê Văn Tâm、匿名希望 1 名 以上



奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

伊藤国際教育交流財団 外国人奨学金

●応募資格 ①外国人留学生で、日本国の大学

等の修士課程（またはそれに準ずる課程）に

正規生として入学を予定している方で、成績人

格ともに優秀で、経済的援助を必要としている

方。専攻分野は問わない。（博士前期課程は修

士課程と見なしますので、応募可能です）

②該当年の4月から入学する方、または前年の

秋学期に入学した方。（秋入学の方の奨学金は、

該当年の4月～修士課程修了までです）

③該当年の1月～2月に行われる面接選考を

受けられること。

④当財団の奨学生として採用決定後、ガイダ

ンスに参加できること。

⑤該当年の4月1日現在において、年齢が29

歳以下の者のぞ（30歳以上で応募する

方は「今、留学を希望する理由」をご提出いた

だきます）

⑥住民票の在留資格から、日本在住であること

の確認ができる方、または取得できる予定の方。

⑦日本語が出来ること。

●生活費 月額 18万円

●給付期間 2年以内

●募集人数 12名程度

*一般枠 10名程度：応募資格を満たした方

*特別プログラム 2名程度：応募資格を満た

し、研究テーマが、「地球温暖化」「異常気象」

「地震」等のメカニズムの研究から「自然災害

の予防・減災」「災害後の対応プロセス」「復興

の支援方法」「被災者の心のケア」「BCP（事

業継続計画）」など、ご自身の研究が災害に

関連するテーマである方。

※ 文系・理系問わず幅広い分野から応募可能

です。

※「特別プログラム」は「一般枠」と重複応募

となります。

●応募方法 主催者ホームページより願書を請求

●募集期間 2018年10月1日（月）から

10月31日（水）消印有効

●主催者 公益財団法人 伊藤国際教育交流財団

URL <http://www.itofound.or.jp/home>

ご報告

東京後楽ロータリークラブより今年も浴衣贈呈・富士神社の盆踊りに参加

8月3日(金)、今年も東京後楽ロータリークラブより浴衣を贈呈頂き、抽選で当選した台湾・マレーシア・モンゴルの計7名にプレゼントされました。さらに今年は抽選に漏れた希望者全員にABKが浴衣を提供。学生たちはそれぞれの華やかな浴衣を着て当日行われた駒込富士神社(東京都文京区)での盆踊りに参加、日本の夏を楽しみました。



後楽ロータリークラブ会長より
留学生に浴衣の贈呈

ABKの地下ホールをリニューアル

アジア文化会館では、日本語学校生、寮生の食事や飲談、勉強の場として親しまれてきた地下ホールをリニューアルしました。床面の全面張り替え、壁の塗り替え、机・椅子の新規入れ替えなどを行い、とても明るくモダンなイメージに一新されました。



MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2018年6月

正会員

(1口)	
浜田 洋子	豊島区
内山 敦之	中野区
真弓 忠	渋谷区
伊藤 源之	東久留米市
中西 鶴子	名古屋市
橋本 イスラムヌール	坂戸市
森尾 正照	北杜市
LIM LIM CHY	江東区
大田原 康彦/真澄	仙台市

鈴木 八重子
堀 幸夫
庄司 龍平
井上 美和子
関 正昭
楊 青雲
酒井 杏郎
竹林 惟允

ご寄附

浜田 洋子	豊島区
増岡 信男	流山市
竹林 惟允	練馬区

2018年7月

特別会員

(1口)	
今西 淳子	文京区

志木市
杉並区
神戸市
文京区
鹿児島市
江戸川区
渋谷区
練馬区

賛助会員

(1口)	
佃 吉一	文京区
株式会社 日吉	近江八幡市

正会員

(2口)	
石川 毅/優子	北区
(1口)	
松浦 吉秀	川越市
長谷川 崇之	さいたま市
大島 京子	秦野市
藤原 一枝	武蔵野市
米田 康三	浦安市
大里 浩秋	逗子市

皆様の暖かい御支援に
感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からのお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

お知らせ

工藤（荻野）正司さんを偲ぶ会を 11 月 10 日（土）12 時～14 時 ルヴェ ソン ヴェール本郷（東京都文京区本郷 6-16-4 フォーレスト本郷内 ☎ 03-5840-8088）にて開催します。

連絡先 ☎ 03-3946-4121（ABK 総務課 中村）

後 記

当財団の日本語コース（1983年設立）の学校法人取得は長年の念願で、財団50周年（2007年）に当たり具体的一歩を踏み出し、その実現のために学校校舎建設募金を行ったところ、23か国・地域のABK同窓生、新星学寮寮友、各国の同窓会、ABK関係者・団体等、計1020件、約6千万円のご寄附をいただき、2013年3月に校舎完成、7月1日付東京都の認可を得て学校法人ABK学園日本語学校を設立した。早いもので、今年5年を経て学生数は320名と、事業は順調に推移している。そこで学園は5周年を記念して、この間力を入れてきた「アジアの大学との連携」ですでに提携を結んだ7か国・地域の9大学のうち、6月に2大学（バングラデシュ、モンゴル）、9月に5大学（タイ、ベトナム2、台湾、マレーシア、カンボジア）の日本語学科の先生方を招き、発表と相互交流をする場を持った。各国の日本語事情、各大学の日本語教育についての話は、とても新鮮かつ興味深いものであった。（本誌掲載）近年アジアで急増する日本語学習者は学習動機として就職を第1位にあげているという。アジアの各大学では、元日本留學生が中心となり日本語教育を展開しているが、どの大学も先生の不足が深刻なこと。日本語教育という日本との橋渡しの最前線で、大変重要な役割を担いかつ情熱を持って教えている先生方の姿を知るよい機会となった。（F）

（お詫びと訂正）

本誌前号（533号）に文の誤りがありました。

ここに慎んでお詫びを申し上げ、下記の通り訂正をいたします。

5 ページ 左段 16 行目

誤「右側に各国の使用者代表がいて」→ 正「右側に各国の労働者代表がいて」

アジアの友 2018 年 8 - 9 月号

2018 年 9 月 20 日発行（通刊第534号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己

編集 アジアの友編集部

発行人 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

第17回 ABK

秋祭り



アジアの各国料理

12:00-15:30

&

パフォーマンス

13:00-16:00

10月27日(土)

アジア文化会館 入場無料

12 00 ~ 16 00

[主催]

ABK 留学生会

(公財) アジア学生文化協会

学校法人 ABK 学館

[協力]

東京後楽ロータリークラブ

コカ・コーライーストジャパン株式会社

[連絡先]

アジア文化会館 TEL 03-3946-4121

